

(写真・文 吉岡義雄)

カメムシの臭い



▲ クサギカメムシ

只見町では「くさむし」と呼ばれ、忌み嫌われるクサギカメムシ。家に侵入されるだけでも不快なのですが、悪臭を放つので厄介です。しかもこの臭いは一度手に着くと、水で洗ってもなかなか落ちません。

カメムシの悪臭の原因は、臭腺という器官から分泌される液体で、中肢の付け根付近から出ます。この分泌液には、複数の種類の臭いの原因物質が含まれており、揮発しやすい物質や、それらを付着させる性質を持つ物質など、様々な働きがあります。

この分泌液には油に溶けやすい物質（親油性）と水に溶けやすい物質（親水性）があります。普通に手を洗っただけではカメムシの臭いが落ちないのは、親油性の物質が原因です。消毒用アルコールや食用油で親油性の物質を落としてから石鹸で手を洗うと効果的に臭いを落とすことができます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「只見のトンボ」

会期：2023年7月29日(土)～11月27日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー